

平成27年度

乳がん地域連携クリティカルパス勉強会

# 乳がん地域連携パス使用中の 医療機関および患者を対象とした アンケート結果報告

松江赤十字病院

がん地域連携パスコーディネーター看護師

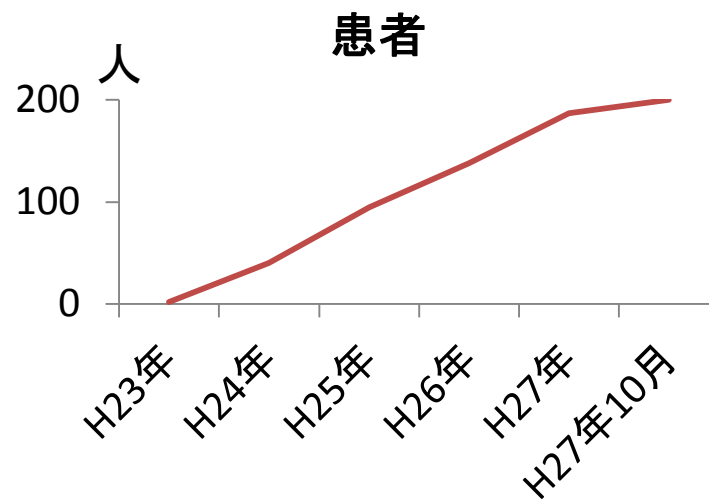
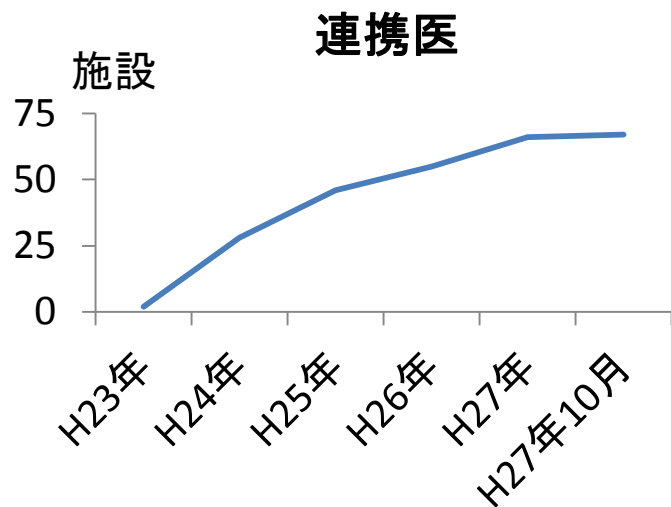
坂本幸子



# はじめに

- 乳がん地域連携クリティカルパス(以下乳がん連携パス)を導入後、**5年が経過**
- 当院の役割
  - ①患者に病気や**治療計画の理解**を促す
  - ②連携保健医療機関医(以後連携医)と**同じ診察内容を共有、同じ治療方針**で診療をすすめる
  - ③いつでも相談しあえる**連携体制作り**
- 松江保健所主催の検討会で**乳がん地域連携パスを発展**

- ・ 連携パスを使用している連携医数と患者数の推移



- ・ 今回、検討会メンバーで医療連携のサービス向上を目的に連携医と患者にアンケート調査を実施

- ・ 調査目的

連携医と患者の乳がん地域連携パスに対する認識を明らかにすることで、当院の役割を明確にする

# 調査方法

**調査方法**：郵送法による自記式質問紙調査

**調査期間**：平成27年11月

**調査対象**：乳がん地域連携パスを使用中の  
連携医と患者

**調査内容**：

連携医療機関	パス使用者数、診察内容、術後診察の困難感 患者からの相談内容、『私のカルテ』の利用状況
患者	属性：年代、術後経過年数 パスの印象、相談内容および 相談場所、診察内容、 自己管理

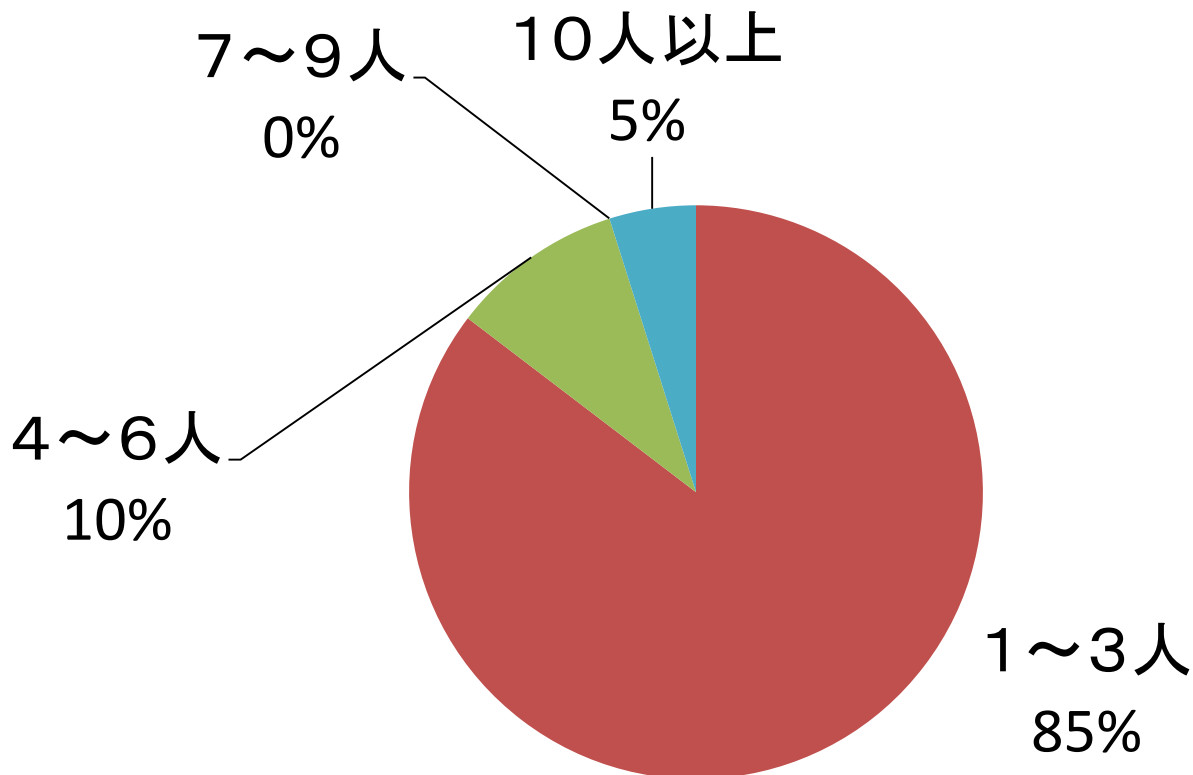
**倫理的配慮**：個人情報保護を明記し、参加の自由意思、  
返信されたことで調査協力の同意を得たとした  
当院倫理委員会で承認

# 結果：連携医

連携医配布：67枚、回収：41枚（回収率61%）

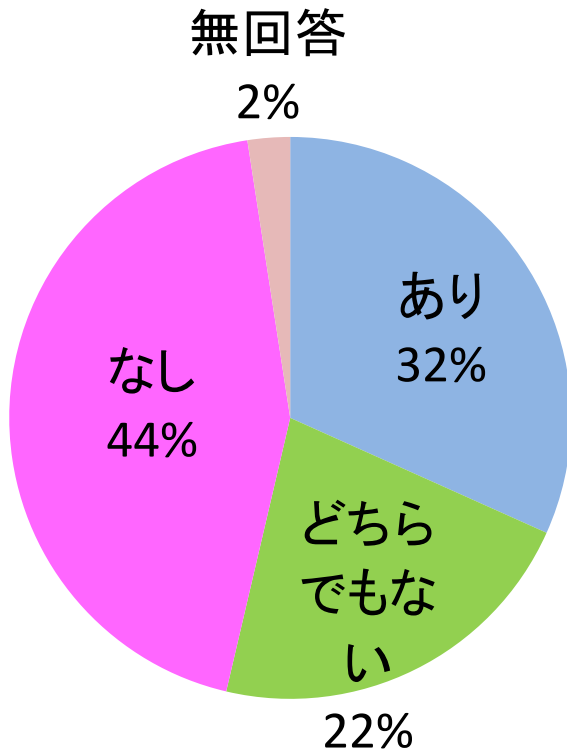
## 1連携医あたりの患者数

n=41

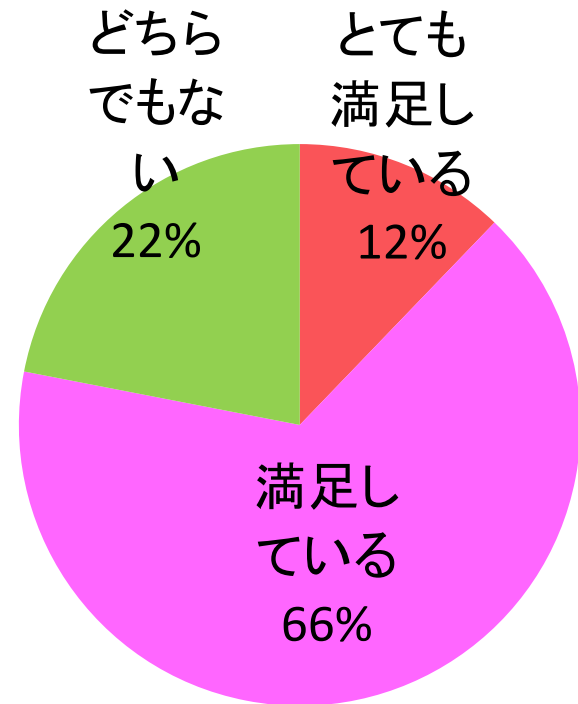


# パスに対する連携医の評価

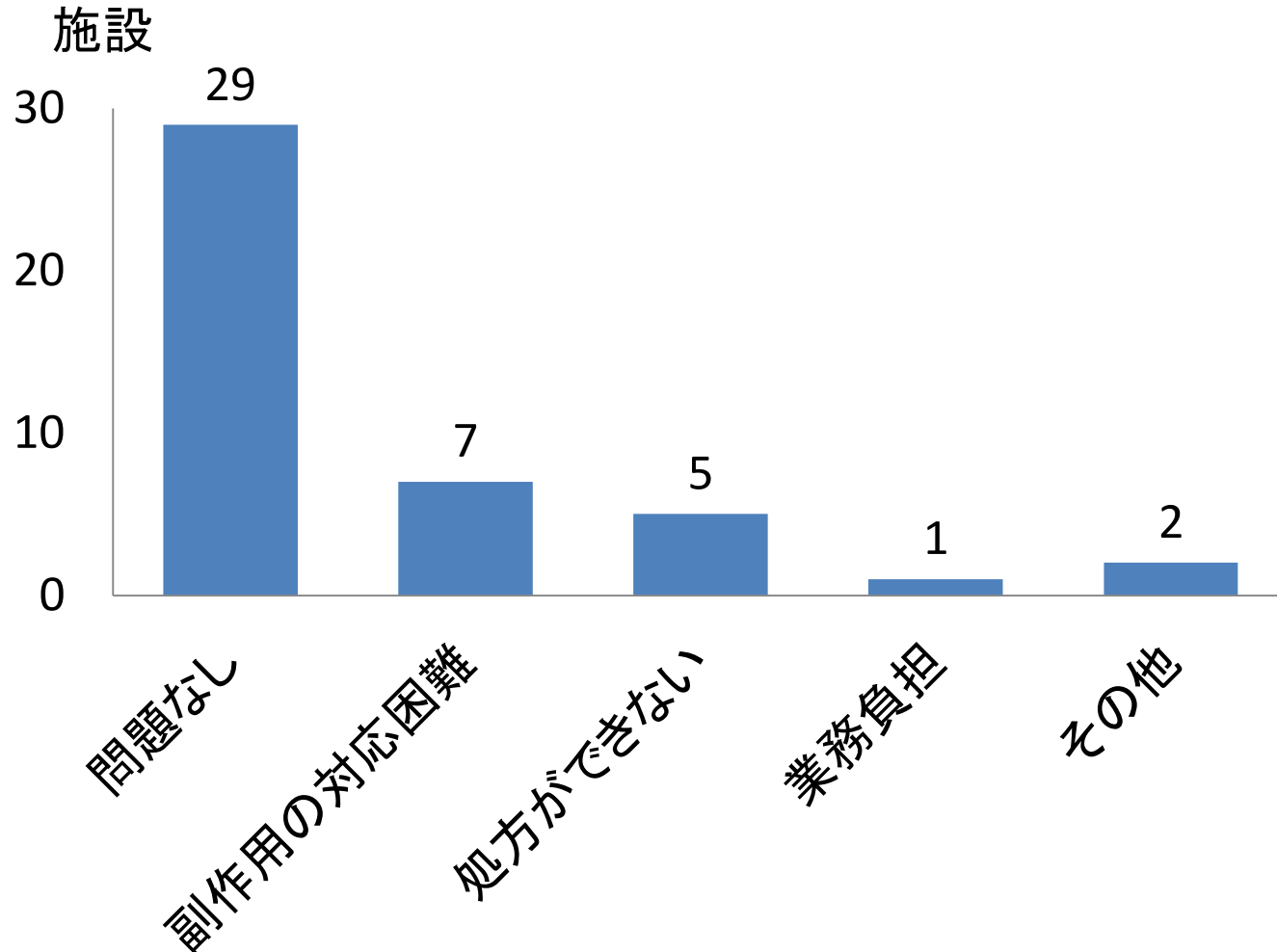
## 乳がんの診療の困難感



## パスの仕組みの満足

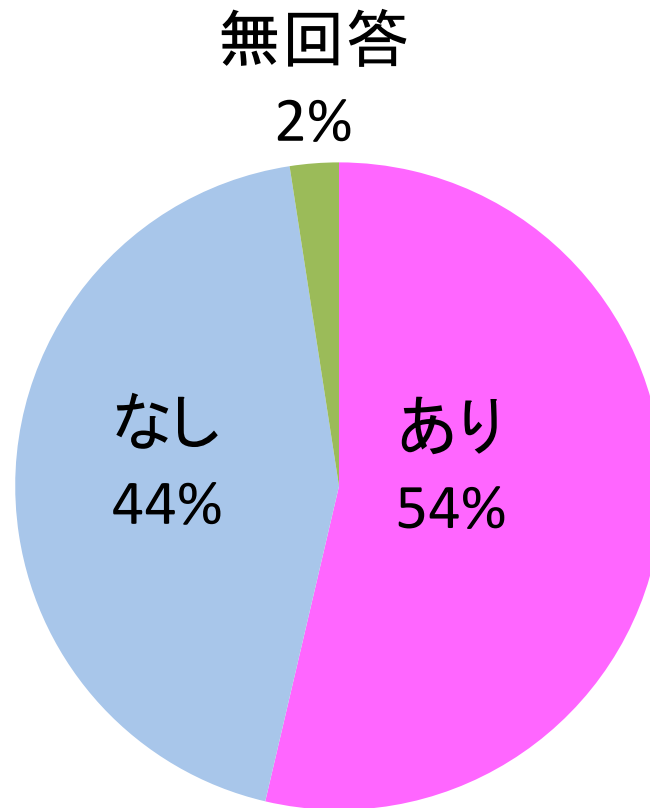


# ホルモン療法への対応 (複数回答)



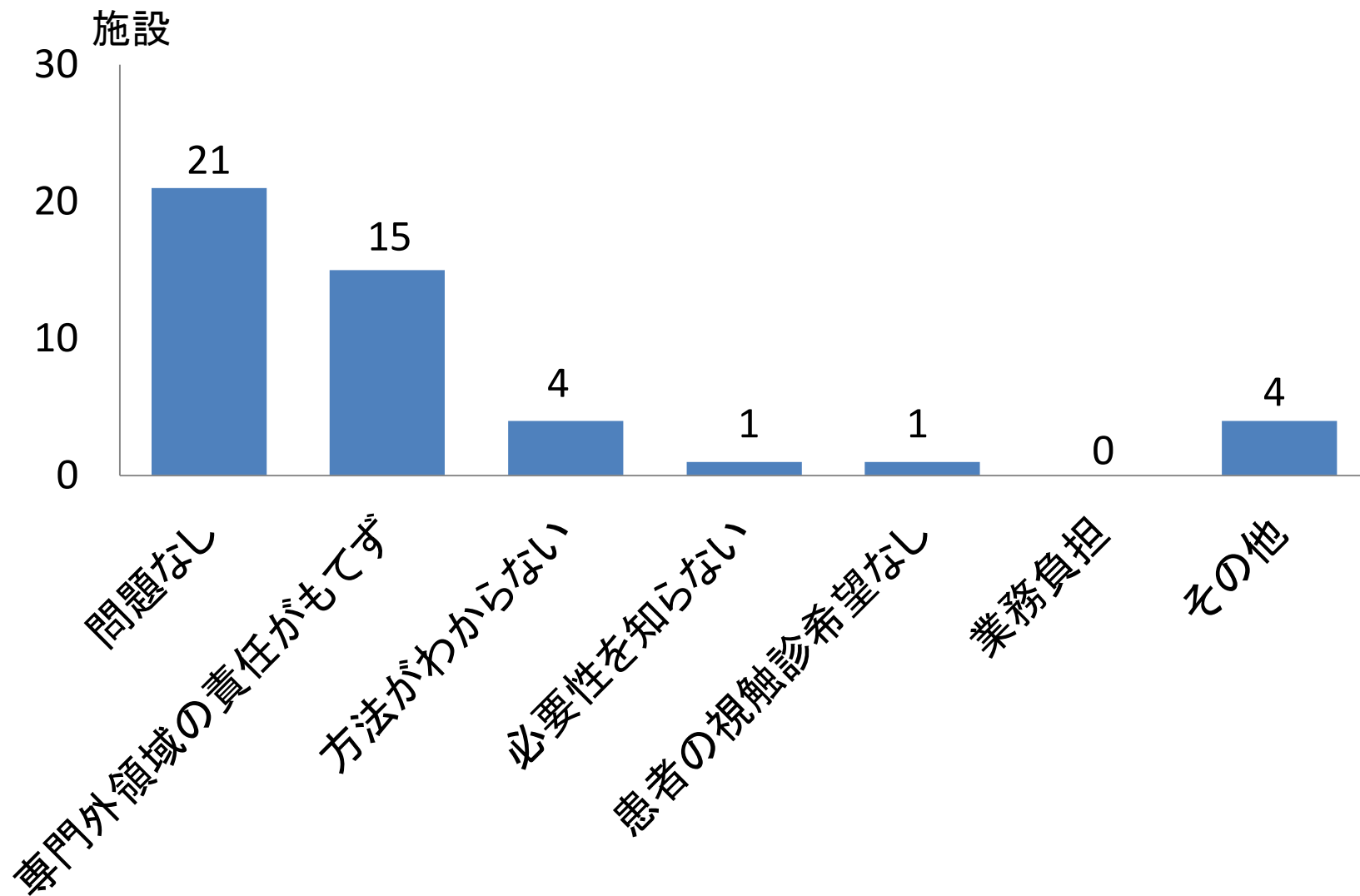
# 乳房視触診の有無

n=41

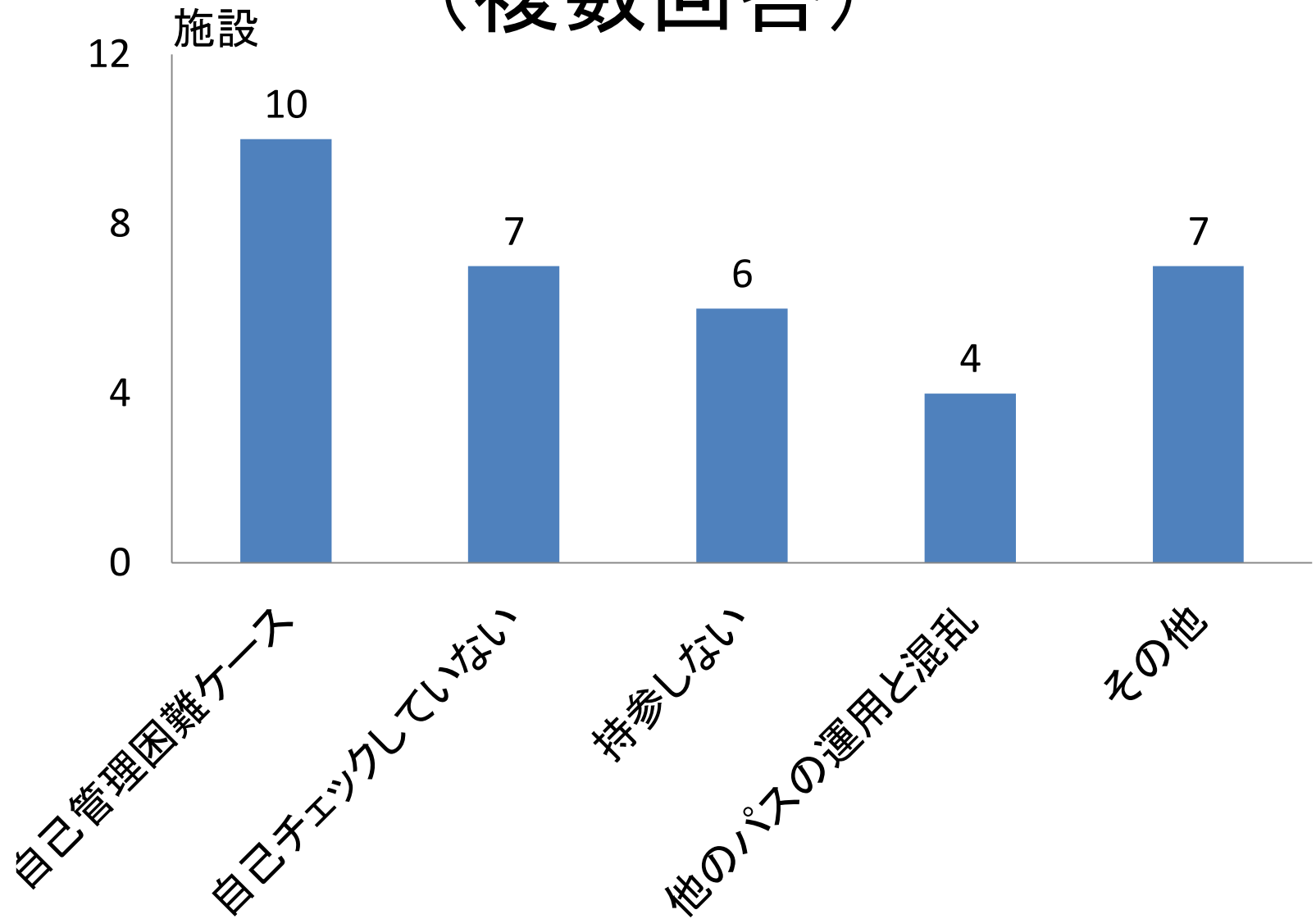




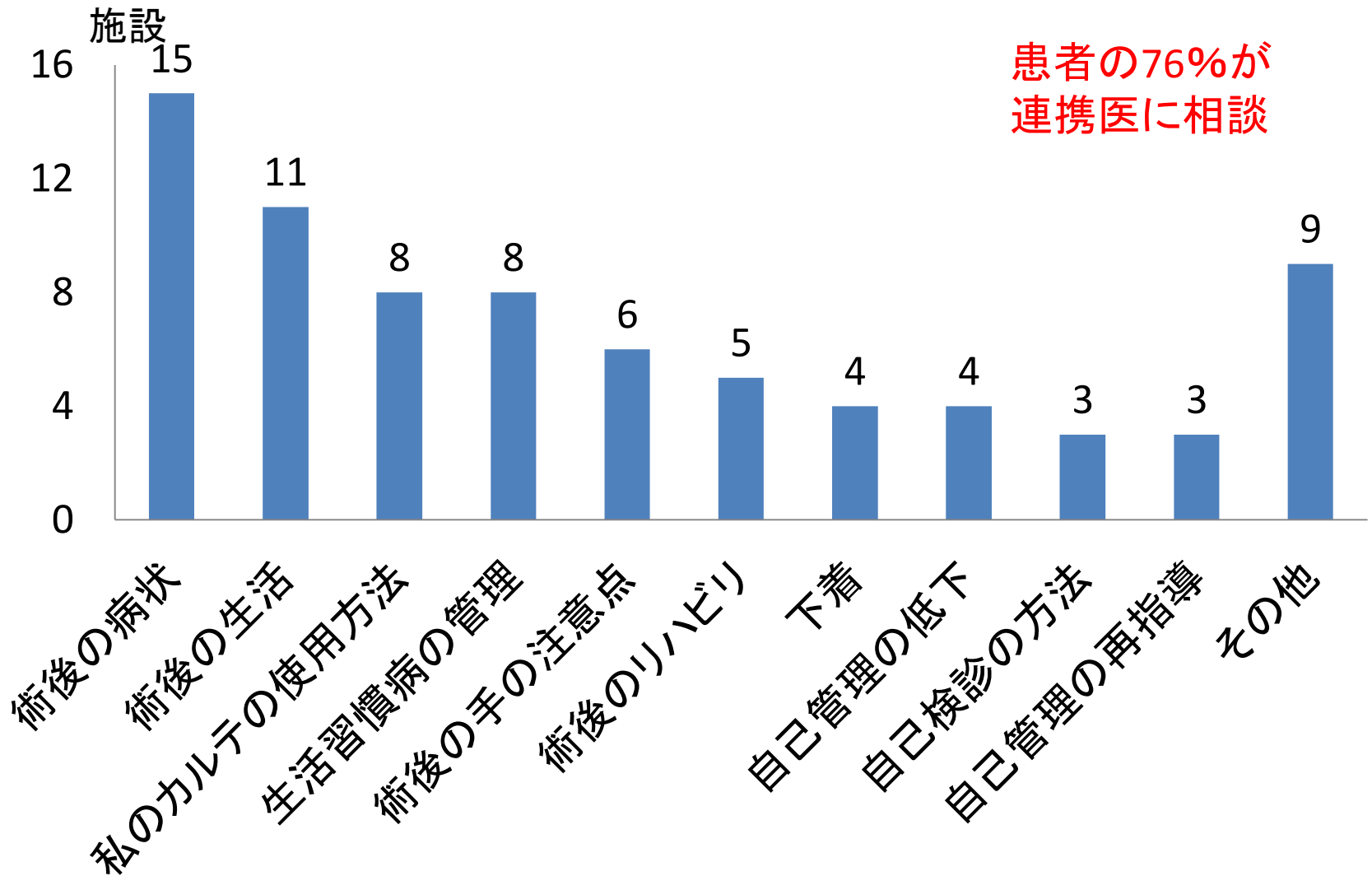
# 乳がん術後の視触診への対応 (複数回答)



# 『私のカルテ』の利用状況 (複数回答)



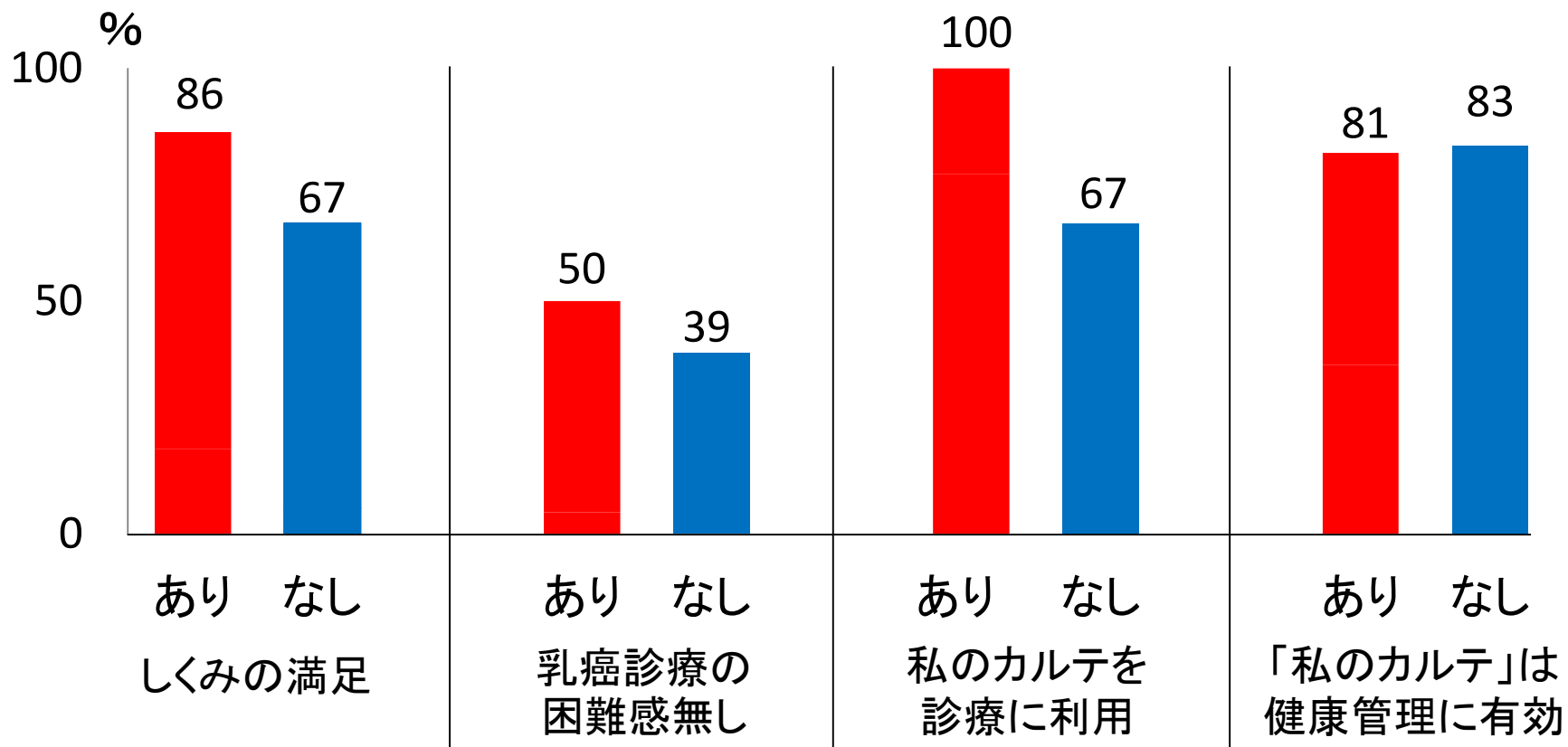
# 患者からの相談内容 (複数回答)



# 乳房視触診（連携医の回答）

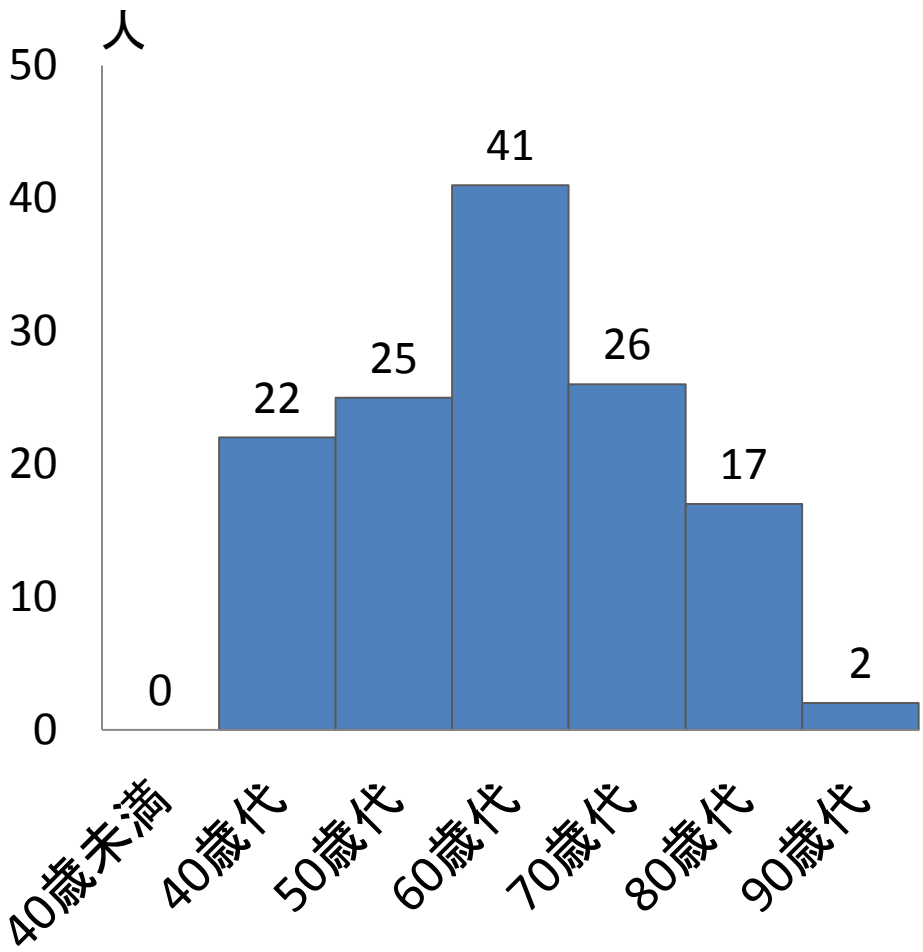
■ 乳房視触診あり  
n=22

■ 乳房視触診なし  
n=18

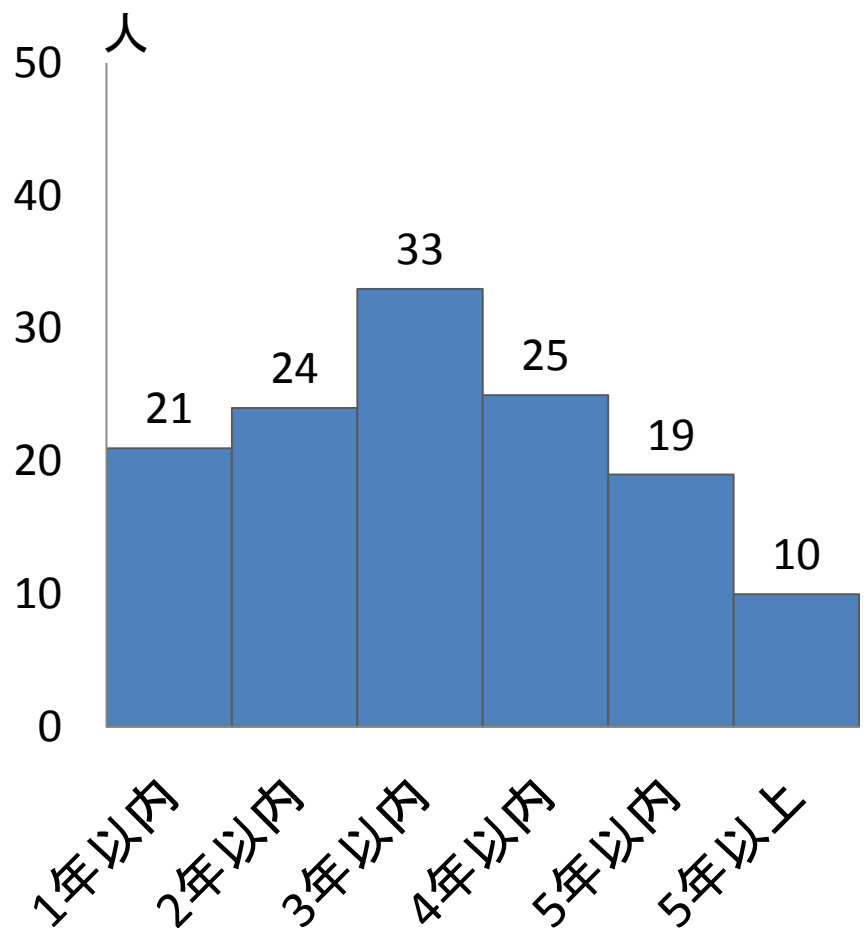


# 結果：患者

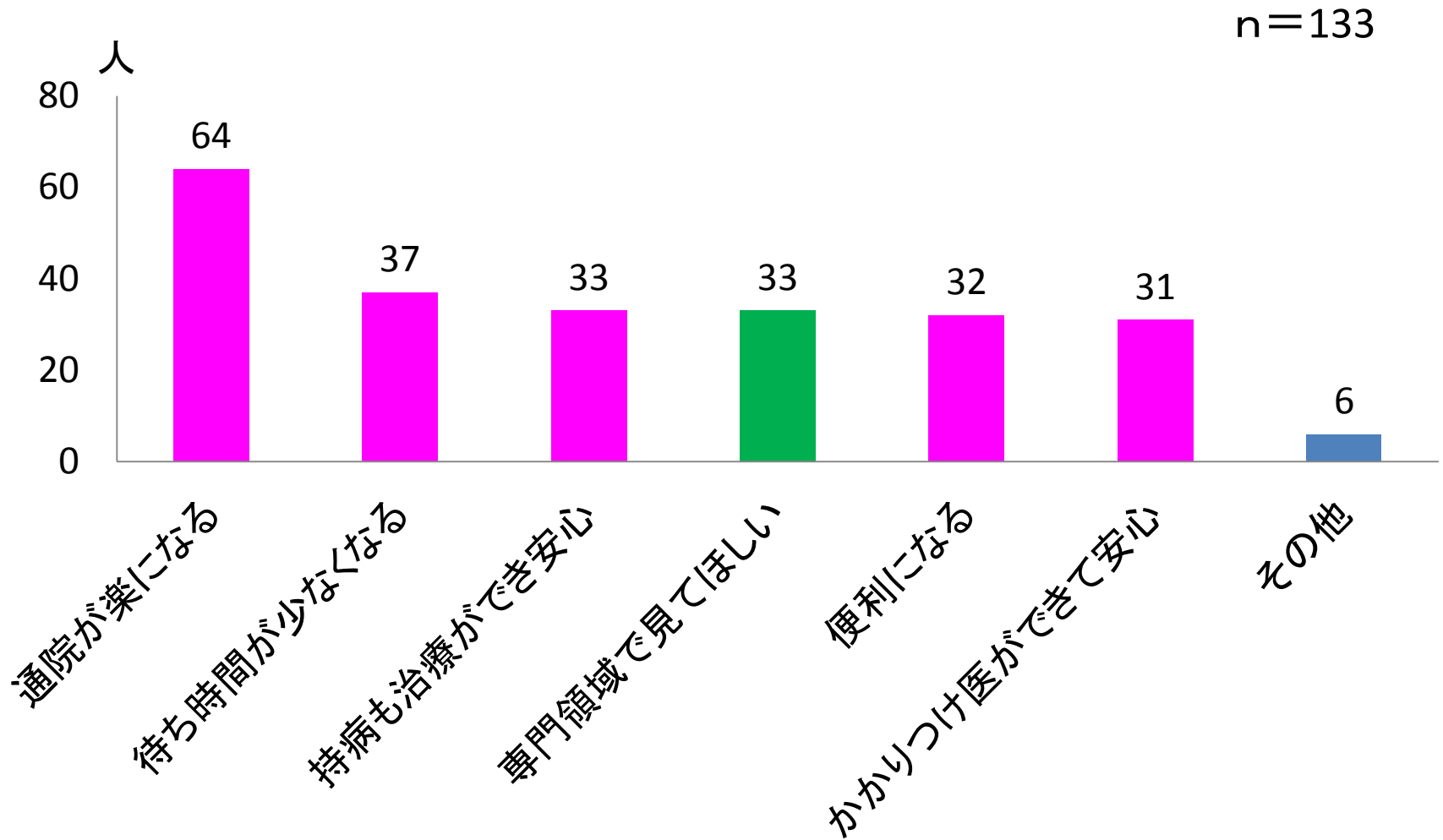
## 患者の年代 n=133



## 術後経過年数 n=133



# パスの説明を受けた時の最初の印象 (複数回答)



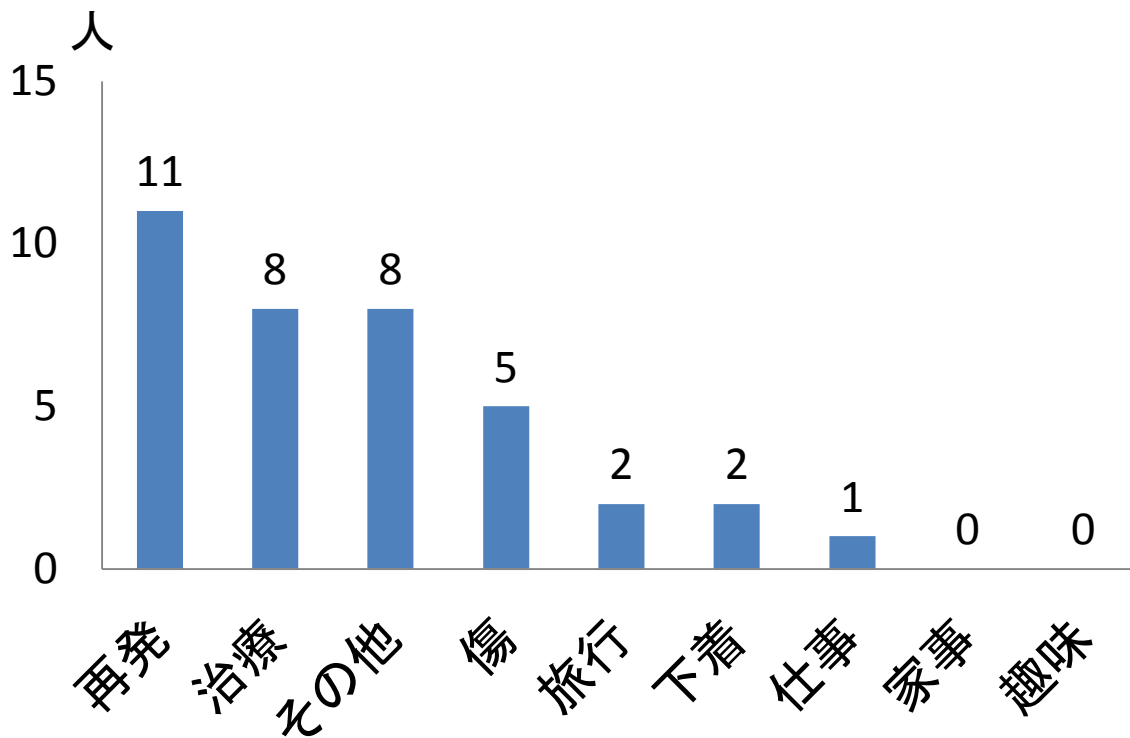
# パス開始後に困ったこと

n=133



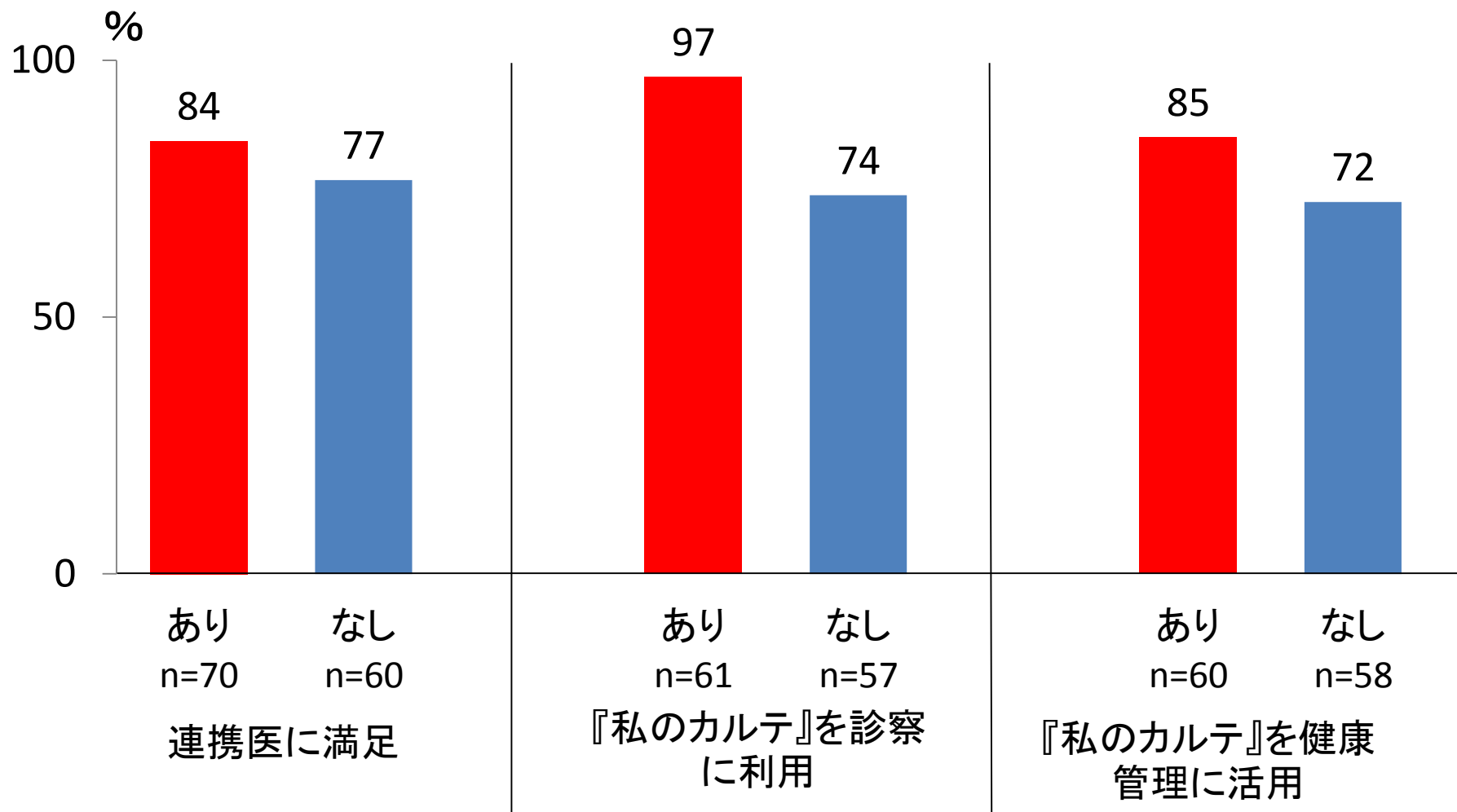
# 困ったことの内容 (複数回答)

n=133



# 乳房視触診の有無による比較(患者からの回答)

■ 乳房視触診あり ■ 乳房視触診なし





# 結果・まとめ

- 乳房の視触診をしている連携医  
パスのしくみに満足

- 乳房の視触診は  
連携医も患者も乳がん連携パスを  
理解して、有効に活用できる

• ということは、

乳房の視触診がパス有効利用の鍵

『私のカルテ』は健康管理に有効と考えている

# 今後の課題

- パス検討会および勉強会の継続
- 乳房視触診の定着
- パスコーディネーターの積極的な相談対応  
と迅速で細やかな調整
- 紹介状での情報共有

ご清聴ありがとうございました

